

【解答】

(1)	ア	イ						
	-5	-6						
(2)	ウ	エ						
	15	14						
(3)	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
	1	7	6	7	7	6	3	5

【解説】

(1)

a, b を実数として $P(x) = 2x^2 + ax + b$ とおく。 $P(x)$ を $x+1$ で割った余りが 1, $x-2$ で割った余りが -8 であるので、剰余の定理より $P(-1) = 1, P(2) = -8$ である。よって、

$$\begin{cases} P(-1) = 1 \\ P(2) = -8 \end{cases}$$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} 2 - a + b = 1 \\ 8 + 2a + b = -8 \end{cases}$$

$$\therefore (a, b) = (-5, -6)$$

である。よって、 $P(x) = 2x^2 - 5x - 6$ である。

(2)

(i)

n 年後の元利合計を a_n 万円とすると、年利 5% であるので、

$$a_n = (1.05)a_{n-1}$$

である。元金が 1 万円であるから、 $a_0 = 1$ として考えると、数列 $\{a_n\}$ は初項 $a_0 = 1$ 、公比 1.05 の等比数列である。よって、

$$a_n = (1.05)^n$$

となる。ここで、

$$\begin{aligned} a_n &> 2 \\ \Leftrightarrow (1.05)^n &> 2 \\ \Leftrightarrow \log_{10}(1.05)^n &> \log_{10} 2 \quad (\because (1.05)^n > 0, 2 > 0, 10 > 1) \\ \Leftrightarrow n \log_{10}(1.05) &> \log_{10} 2 \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 2}{\log_{10}(1.05)} \quad (\because \log_{10}(1.05) > 0) \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 2}{\log_{10} \frac{21}{20}} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 2}{\log_{10} 21 - \log_{10} 20} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 2}{\log_{10}(3 \cdot 7) - \log_{10}(2 \cdot 10)} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 2}{\log_{10} 3 + \log_{10} 7 - \log_{10} 2 - 1} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{0.3010}{0.4771 + 0.8451 - 0.3010 - 1} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{0.3010}{0.0212} \\ \Leftrightarrow n &> 14.1981 \dots \end{aligned}$$

となるから、 $a_n > 2$ となる最小の自然数 n は $n = 15$ である。以上より、元利合計が初めて 2 万円を超えるのは 15 年後である。

(ii)

n 年後の資金を b_n 万円とすると、問題の条件より

$$b_n = (1.05)b_{n-1} + 1$$

となる。この式を変形すると、

$$b_n + 20 = (1.05)(b_{n-1} + 20)$$

となる。元金が 1 万円であるから、 $b_0 = 1$ として考えると、数列 $\{b_n + 20\}$ は初項 $b_0 + 20 = 21$ 、公比 1.05 の等比数列である。よって、

$$b_n = 21(1.05)^n - 20$$

である。ここで、

$$\begin{aligned} b_n &> 20 \\ \Leftrightarrow 21(1.05)^n - 20 &> 20 \\ \Leftrightarrow (1.05)^n &> \frac{40}{21} \\ \Leftrightarrow \log_{10}(1.05)^n &> \log_{10} \frac{40}{21} \quad (\because (1.05)^n > 0, \frac{40}{21} > 0, 10 > 1) \\ \Leftrightarrow n \log_{10}(1.05) &> \log_{10} \frac{40}{21} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 40 - \log_{10} 21}{\log_{10}(1.05)} \quad (\because \log_{10}(1.05) > 0) \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 40 - \log_{10} 21}{\log_{10} \frac{21}{20}} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{\log_{10} 40 - \log_{10} 21}{\log_{10} 21 - \log_{10} 20} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{2 \log_{10} 2 + 1 - \log_{10} 3 - \log_{10} 7}{\log_{10} 3 + \log_{10} 7 - \log_{10} 2 - 1} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{2(0.3010) + 1 - 0.4771 - 0.8451}{0.4771 + 0.8451 - 0.3010 - 1} \\ \Leftrightarrow n &> \frac{0.2798}{0.0212} \\ \Leftrightarrow n &> 13.19 \dots \end{aligned}$$

となるから、 $b_n > 20$ となる最小の自然数 n は、 $n = 14$ である。以上より、資金が初めて 20 万円を超えるのは、14 年後である。

(3)

$P(A) = \frac{3}{5}$ より、

$$P(\bar{A}) = 1 - P(A) = \frac{2}{5}$$

である。また、

$$P_{\bar{A}}(B) = \frac{P(\bar{A} \cap B)}{P(\bar{A})} = \frac{5}{2} P(\bar{A} \cap B)$$

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{5}{3} P(A \cap B)$$

であるので、

$$\begin{aligned} \frac{P_{\bar{A}}(B)}{P_A(B)} &= 9 \\ \Leftrightarrow \frac{5}{2} P(\bar{A} \cap B) &= 9 \cdot \frac{5}{3} P(A \cap B) \\ \Leftrightarrow P(\bar{A} \cap B) &= 6P(A \cap B) \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

となる。また、

$$P(B) = P(A \cap B) + P(\bar{A} \cap B)$$

であるから、①とあわせて、

$$P(B) = 7P(A \cap B) = \frac{7}{6} P(\bar{A} \cap B)$$

となる。以上より、

$$\begin{aligned} P_{\bar{A}}(A) &= \frac{P(\bar{A} \cap B)}{P(B)} = \frac{1}{7} \\ P_{\bar{A}}(\bar{A}) &= \frac{P(\bar{A} \cap \bar{B})}{P(B)} = \frac{6}{7} \end{aligned}$$

である。また、

$$\begin{aligned} P(A \cup B) &= P(A) + P(B) - P(A \cap B) \\ &= \frac{3}{5} + 7P(A \cap B) - P(A \cap B) \\ &= 6P(A \cap B) + \frac{3}{5} \end{aligned}$$

である。

【解答】

(1)	ス	セ	ソ	
	1	2	-1	
(2)	タ			
	2			
(3)	チ	ツ	テ	ト
	-1	2	3	2
(4)	ナ	ニ		
	2	2		
(5)	ヌ	ネ	ノ	
	3	8	3	

【解説】

(1) $s = x + y, t = xy$ のとき、 $x^2 + y^2 = 1$ を用いると

$$\begin{aligned} s^2 &= (x+y)^2 \\ &= x^2 + 2xy + y^2 \\ &= 2t + 1 \end{aligned}$$

$$\therefore t = \frac{1}{2}(s^2 - 1)$$

となる。

(2)

 $x^2 + y^2 = 1$ より、 $0 \leq \theta < 2\pi$ である実数 θ を用いて、 $x = \cos \theta, y = \sin \theta$ とおける。このとき、

$$\begin{aligned} s^2 &= 2xy + 1 \\ &= 2 \sin \theta \cos \theta + 1 \\ &= \sin 2\theta + 1 \end{aligned}$$

である。ここで、 $0 \leq \theta < 2\pi$ において $-1 \leq \sin 2\theta \leq 1$ であることから、 $0 \leq s^2 \leq 2$ である。

(3)

 $s = x + y, t = xy, t = \frac{1}{2}(s^2 - 1)$ を用いて与式を変形すると、

$$\begin{aligned} F(x, y) &= x^3 + y^3 - a(x+y) \\ &= (x+y)(x^2 - xy + y^2) - as \\ &= s(1-t) - as \\ &= s - \frac{1}{2}s(s^2 - 1) - as \\ &= -\frac{1}{2}s^3 + \left(\frac{3}{2} - a\right)s \end{aligned}$$

となる。

(4)

 $a = 1$ のとき、(3)より $F(x, y) = -\frac{1}{2}s^3 + \frac{1}{2}s$ である。ここで、 $F(x, y) = G(s)$ とおくと、

$$\begin{aligned} G'(s) &= -\frac{3}{2}s^2 + \frac{1}{2} \\ &= -\frac{3}{2}\left(s^2 - \frac{1}{3}\right) \\ &= -\frac{3}{2}\left(s - \frac{\sqrt{3}}{3}\right)\left(s + \frac{\sqrt{3}}{3}\right) \end{aligned}$$

となる。ここで、 s のとりうる値の範囲について、

$$\begin{aligned} s &= \cos \theta + \sin \theta \\ &= \sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) \end{aligned}$$

であるので、 $-\sqrt{2} \leq s \leq \sqrt{2}$ である。よって、 $G'(s) = 0$ となるのは $s = \pm \frac{\sqrt{3}}{3}$ のときであり、増

減表は以下のようになる。

s	$-\sqrt{2}$...	$-\frac{\sqrt{3}}{3}$...	$\frac{\sqrt{3}}{3}$...	$\sqrt{2}$
$G'(s)$	-	-	0	+	0	-	-
$G(s)$		↘	極小	↗	極大	↘	

増減表より、 $-\sqrt{2} \leq s \leq \sqrt{2}$ における $G(s)$ の最大値として、 $G(-\sqrt{2})$ または $G\left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right)$ が考えられる。ここで、

$$\begin{aligned} G(-\sqrt{2}) &= -\frac{1}{2} \cdot (-\sqrt{2})^3 + \frac{1}{2} \cdot (-\sqrt{2}) \\ &= \sqrt{2} - \frac{\sqrt{2}}{2} \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2} \end{aligned}$$

であり、また、

$$\begin{aligned} G\left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right) &= -\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right)^3 + \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right) \\ &= -\frac{\sqrt{3}}{18} + \frac{\sqrt{3}}{6} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{9} \end{aligned}$$

である。 $\frac{\sqrt{2}}{2} > 0, \frac{\sqrt{3}}{9} > 0, \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^2 = \frac{1}{2}, \left(\frac{\sqrt{3}}{9}\right)^2 = \frac{1}{27}$ であるから、 $\frac{\sqrt{2}}{2} > \frac{\sqrt{3}}{9}$ 、つまり $G(-\sqrt{2}) > G\left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right)$ である。以上より、 $F(x, y)$ は $s = -\sqrt{2}$ のとき最大値 $\frac{\sqrt{2}}{2}$ をとる。

(5)

 $a = \frac{3}{8}$ のとき、(3)より $F(x, y) = -\frac{1}{2}s^3 + \frac{9}{8}s$ である。ここで、新たに $F(x, y) = G(s)$ とおくと、

$$\begin{aligned} G'(s) &= -\frac{3}{2}s^2 + \frac{9}{8} \\ &= -\frac{3}{2}\left(s^2 - \frac{3}{4}\right) \\ &= -\frac{3}{2}\left(s - \frac{\sqrt{3}}{2}\right)\left(s + \frac{\sqrt{3}}{2}\right) \end{aligned}$$

となる。よって、 $G'(s) = 0$ となるのは $s = \pm \frac{\sqrt{3}}{2}$ のときであり、増減表は以下のようになる。

s	$-\sqrt{2}$...	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$...	$\frac{\sqrt{3}}{2}$...	$\sqrt{2}$
$G'(s)$	-	-	0	+	0	-	-
$G(s)$		↘	極小	↗	極大	↘	

増減表より、 $-\sqrt{2} \leq s \leq \sqrt{2}$ における $G(s)$ の最大値として、 $G(-\sqrt{2})$ または $G\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ が考えられる。ここで、

$$\begin{aligned} G(-\sqrt{2}) &= -\frac{1}{2} \cdot (-\sqrt{2})^3 + \frac{9}{8} \cdot (-\sqrt{2}) \\ &= \sqrt{2} - \frac{9\sqrt{2}}{8} \\ &= -\frac{\sqrt{2}}{8} \end{aligned}$$

であり、また、

$$\begin{aligned} G\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right) &= -\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^3 + \frac{9}{8} \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right) \\ &= -\frac{3\sqrt{3}}{16} + \frac{9\sqrt{3}}{16} \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{8} \end{aligned}$$

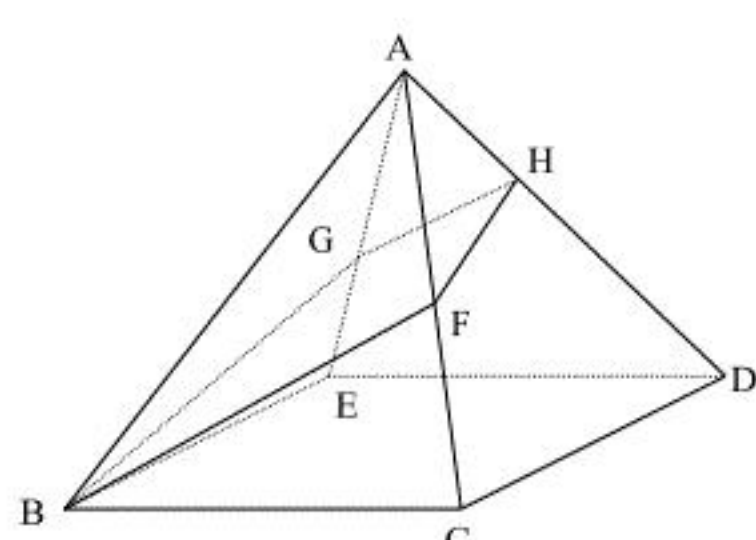
である。 $-\frac{\sqrt{2}}{8} < 0 < \frac{3\sqrt{3}}{8}$ であるから、 $G(-\sqrt{2}) < G\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ である。以上より、 $F(x, y)$ は $s = \frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{8}$ をとる。

【解答】

(1)	ハ	ヒ	
	2	3	
(2)	フ	ヘ	ホ
	2	3	5
(3)	マ	ミ	ム
	7	11	6
(4)	メ	モ	ヤ
	2	9	2

【解説】

(1)


 $\overline{AB} = \vec{b}, \overline{AC} = \vec{c}, \overline{AD} = \vec{d}$ とすると,

$$\overline{AE} = \overline{AB} + \overline{BE} = \overline{AB} + \overline{CD} = \vec{b} - \vec{c} + \vec{d}$$

$$\overline{AF} = \frac{1}{2}\vec{c}$$

$$\overline{AG} = \frac{1}{2}\overline{AE} = \frac{1}{2}(\vec{b} - \vec{c} + \vec{d})$$

となる。点 H は平面 α 上にあるから, s, t を実数として,

$$\begin{aligned} \overline{AH} &= s\overline{AB} + t\overline{AF} + (1-s-t)\overline{AG} \\ &= \frac{1+s-t}{2}\vec{b} + \frac{-1+s+2t}{2}\vec{c} + \frac{1-s-t}{2}\vec{d} \end{aligned}$$

と表せる。また, 点 H は辺 AD 上にあるから, $0 \leq k \leq 1$ である実数 k を用いて

$$\overline{AH} = k\overline{AD}$$

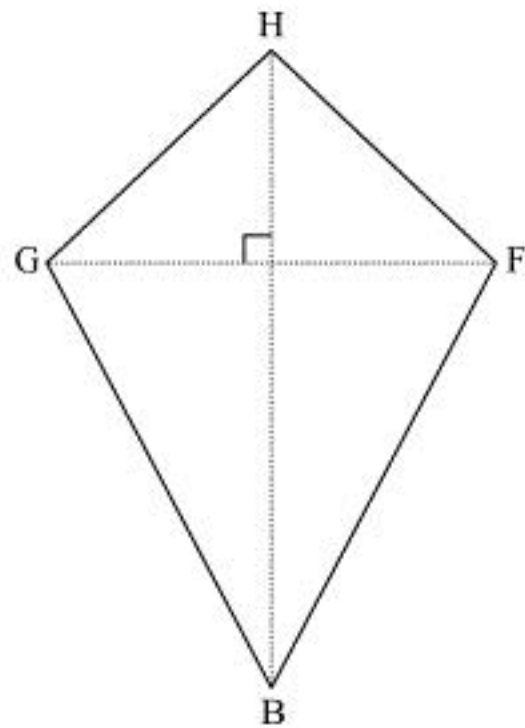
と表せる。 $\vec{b}, \vec{c}, \vec{d}$ は 1 次独立であるから, 係数を比較することにより,

$$\begin{cases} \frac{1+s-t}{2} = 0 \\ \frac{-1+s+2t}{2} = 0 \\ \frac{1-s-t}{2} = k \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} s = -\frac{1}{3} \\ t = \frac{2}{3} \\ k = \frac{1}{3} \end{cases}$$

となる。よって, $\overline{AH} = \frac{1}{3}\overline{AD}$ であり, $AH = \frac{1}{3} \cdot AD = \frac{2}{3}$ である。

(2)

まず, 点 F と点 G は, $\triangle ABH$ を含む平面に対して対称であるから, $BH \perp FG$ である。よって, 位置関係は下図の通りになる。



ここで, 四角形 BCDE は正方形であるから, $BD = CE = 2\sqrt{2}$ である。よって, $\triangle ACE$ と $\triangle ABD$ は辺の大きさが $2, 2, 2\sqrt{2}$ の直角二等辺三角形であり, $\angle BAD = \angle CAE = 90^\circ$ であることが分かる。したがって, 三平方の定理を用いて,

$$BH = \sqrt{AH^2 + AB^2} = \sqrt{2^2 + \left(\frac{2}{3}\right)^2} = \frac{2\sqrt{10}}{3}$$

$$GF = \sqrt{AG^2 + AF^2} = \sqrt{1^2 + 1^2} = \sqrt{2}$$

となる。以上より, 求める断面積 S は,

$$S = \frac{1}{2} \cdot BH \cdot FG = \frac{2}{3}\sqrt{5}$$

である。

(3)

平面 α によって分けられてできる立体のうち, 点 D を含む立体について, 頂点の数は

B, C, D, E, F, G, H

の 7 である。次に, 辺の数は

BC, CD, DE, EB, CF, DH, EG, BF, BG, FH, GH

の 11 である。最後に, 面の数は

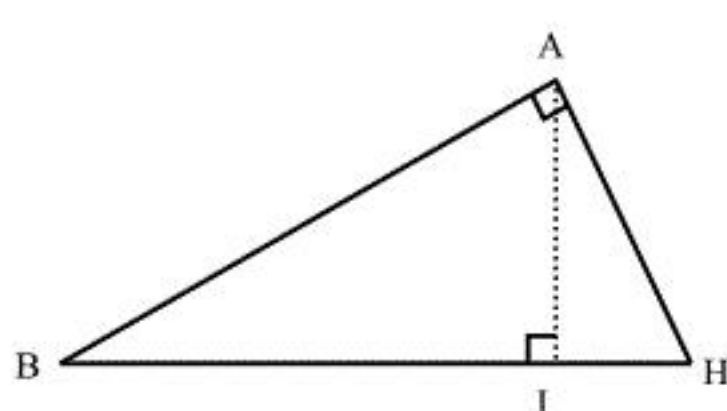
四角形 BFHG, FCDH, HDEG, BCDE

三角形 BCF, BEG

の 6 である。

(4)

点 A から平面 α に下ろした垂線の足を点 I とする。四角錐 A-BFHG は, $\triangle ABH$ を含む平面に対して対称であるから, 点 I は直線 BH 上にある。 $\triangle ABH$ について, $\angle BAH = \angle BAD = 90^\circ$ であるから, 点 I は線分 BH 上に存在し, 位置関係は下図の通りになる。



よって,

$$\triangle ABH = \frac{1}{2}AH \cdot AB = \frac{1}{2}AI \cdot BH$$

$$\therefore AI = \frac{AH \cdot AB}{BH} = \frac{\frac{2}{3} \cdot 2}{\frac{2\sqrt{10}}{3}} = \frac{\sqrt{10}}{5}$$

となる。以上より, 求める立体の体積 V は,

$$V = \frac{1}{3} \cdot S \cdot AI = \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3}\sqrt{5} \cdot \frac{\sqrt{10}}{5} = \frac{2}{9}\sqrt{2}$$

である。